

『意先筆後』

1. 100号にあたって

AMIの栩野です。当「AMIニュース」は、07年3月1日に「AMIマンスリー」としてスタートしています。最初は、月に1回の予定でしたが、すぐに、毎週土曜日に発行するようになりました。それ以後、回を重ねて、今回、100号という区切りの号を迎えました。これも、読んで頂ける皆様のお蔭と感謝申し上げます。

さて、タイトルの「意先筆後」は、ある異業種交流会で弘法大師の言葉としてご紹介されて気に入ったものです。講師の方は、「密教では、グダグダと議論し始めると『意先筆後』と言って、どのようにしたいのかをハッキリさせよと相手に迫る」と話されました。しかし、その後、インターネットで調べると「書を作るに当たっては、まずその作品についての意図・構想を明確にさせてから書くべきだ。」「技法より作者の主体的なモチーフ、意図を重視した言葉。」とあったが、一方、書道の世界では、「意先筆後」は「意のままに筆が動く」という事で「書の表現の理想」とありました。密教で日常使う「意先筆後」は、どうも、書道方が使い方としては「近い」ように思えます。



実は、私は、この「意のままに筆が動く」という事を100号に際して強調したいのです。毎週、この「AMIニュース」を書いて来たのですが、毎回、一つのテーマを決めて私見を展開して来たのです。「テーマ」を決めるが「意」であり、その「意」に従って「私見」を書く、丁度、書道の「意のままに筆が動く」という感じである。パツと思いついて、それを文書化できる・・・そんな感じなのですが、実は、これが、私の「人より努力できる才能」なのです。

2. 「努力のやり方」

右掲は、87号でご紹介した北京オリンピックの民放で放映されたメッセージであります。「才能」というものを再認識したメッセージです。「人より努力できる才能」という意味で、この「AMIニュース」を「意先筆後」(意のままに筆が動く)という状態で100回目を迎えるという事実があるのです。

確かに、「人より努力できる才能」なのですが、その次の「努力のやり方を知っている」は、私の「やり方」としては、特長が3つあって、1つ目は、毎週土曜日に発行すると決めておく、2つ目は、普段から、いろんな事に関心を持っていて、いつでも引き出せる状態にしておく、3つ目は、その中から、パツと思いついたテーマを起承転結で私見を書き上げるという事であります。

強いて言えば、皆様にアドバイスできるのは、1つ目の「毎週土曜日に発行すると決めておく」という風にルール化して、自分を追い込む方法が有効であり、3つ目の「パツと思いついた・・・」とあるように、余り、あれこれと思いを巡らせて迷路にはまり込むよりも「パツと・・・」というように、「ヒラメキ」を優先するようにしている事がお薦めであります。ところが、パツと閃いて、その勢いで書くという事が出来ない人が多いのも事実なのです。

人より努力できる才能

努力のやり方を知っている

努力は夢への近道。

エネオスのCMより

3. 「努力は夢への近道」

エネオスのCMを気に入っているのですが、最後の「努力は夢への近道」が一番重要なメッセージと思っています。私は、「努力」＝「回数」という風にとらえていて、何回も繰り返すという意味に考えています。この「繰り返す」ことが「3日坊主」というように難しいのです。私は、「繰り返す」ためのヒケツは、「目標」を決める事が重要と思います。私の場合、まず、100号を「とりあえずの目標」としたのです。そういう意味で、今回、初期の目標を達成することになります。

では、100回が夢への近道だったかという点がポイントになります。私は、通過点でしかなかったと思っています。私の「夢」は何かと言いますと「このニュースの読者が増える」という事を通して「有名になる」事なのです。「夢」＝「有名」と考えています。この「有名になる仕掛け」として、ホームページやブログなども活用しており、その一つのパロメーターとなる「仕掛け」としてデジタル出版で「ちょっとの差」(300円)を出版しました。少しずつ、反応が出ています。私の著書をデジタルの状態ですべて300円出して買ってくれるという点をパロメーターとしたのです。これからが楽しみです。

デジタル出版「ちょっとの差」(300円)⇒「夢」＝「有名」のパロメーターとしていますが、その他に「無料メール・セミナー:会わずに売る逆転のNASA戦略」も用意して、すでに、始まっています。多くのお客様に全7回のコースで提供し、何かの「気づき」のお役に立てれば幸いと思っています。

4. 200号へ向けて

年間52週なので、200号は、2010年の11月頃の予定になります。私にとって、この2年間は、大きく変化する2年間でもあります。2009年7月に満60才になるのです。お蔭様で厚生年金に報酬比例部分というものが頂けるようになるし、住宅やクルマのローンなども終了するのです。いよいよ、身軽に動けるようになるのです。五木寛之さんの著書「林住期」によると「本当にしたいことをする時期」とあります。まさしく、そのようになりたいと思っています。

経済は、アメリカの「バブル崩壊」の激震で大きく揺れ動いていますが、「看脚下」という教えの通り、これまで蓄積して来た「知識・経験」を遺憾なく発揮して「根性」＝「努力」という図式で「コツコツ、ジワジワ、イキイキ、タンタン」という船井先生のPDCA観を実践して行きたいと思っています。これからは「AMIニュース」を「意先筆後」でパッと閃く「勢い」を大切にして、皆様に、メッセージを発信して行きたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

【まとめ】

1. 「意先筆後」・・・書道では「意のままに筆が動く」・・・焦点をハッキリさせる
2. 「努力のやり方」・・・パッと閃くジャズ的な動きをベースだが、平素の下準備が重要である
3. 「夢」＝「有名」・・・デジタル出版「ちょっとの差」がパロメーター
4. 次の200号・・・「林住期」的变化の中で2010年11月を目標にする

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> でご覧になれます！】